令和7年度「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開内容 シリーズ転調の花鳥

	公開期間	ス・一米%件主画 及外状成品」が画 4 用 17 12 7 7 14 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	公開作品
春期	4月24日(木)~ 6月22日(日) [60日間]	将軍の鷹 ~ 〈大広間〉四の間~ 〈大広間〉は、将軍との公式の対面所を備え、障壁画には、金箔地に巨大な松と鳥が描かれます。一の間から三の間は、孔雀や錦鶏鳥といった異国の珍鳥を描くのに対し、今回展示する四の間は、将軍が好んだ鷹狩に使われる様な、勇壮な鷹を描くのが特徴です。加えて、一の間から三の間は、余白を生かした新しい絵画様式を示すのに対し、四の間は、松や鷹を、画面からはみ出さんばかりに大きく描く、桃山時代の様式を継承しています。	**プロの間障壁画《松鷹図》
夏期	7月18日(金)~ 9月15日(月・祝) [60日間]	聳え立つ檜 ~〈遠侍〉勅使の間 (下段)~ 二の丸御殿〈遠侍〉の各室のうち、北東に位置する勅使の間は、かつては「殿上の間」とも呼ばれ、朝廷からの使いのための部屋でした。この対面所には、大名らが控えたとされる「虎の間」とは異なり、優美な花鳥図が描かれています。今回展示する下段には、襖や腰障子貼付に、春の風情を伝える桃や海棠が、壁面に、金雲をつきぬけて伸び上がる檜の木立が描かれています。華やかさとともに威圧感をも醸し出す画面をご鑑賞ください。	〈遠侍〉勅使の間(下段)障壁画 かえでひのきももしょうきんず 《楓 檜 桃 小 禽 図》
秋期	10月9日(木)~ 12月7日(日) [60日間]	〈黒書院〉の秋 ~ 〈黒書院〉四の間~ 小広間とも呼ばれる〈黒書院〉は、将軍と徳川家に近しい人物との対面に使われた棟で、その障壁画は、季節の景物を描くことに特色があります。一の間・二の間は春、三の間は秋から冬、そして、今回ご紹介する四の間の障壁画は、長押上にススキ野原に舞う扇笛、長押下に大輪の花を咲かせる菊、すなわち秋の景物を描きます。曲線を繰り返すススキと扇、直線的に伸びる菊、二つの「秋」の対照を、ぜひ、ご覧ください。	〈黒書院〉四の間障壁画《菊図》 《秋草扇面散図》
冬期	12月23日(火)~ 令和8年2月23日 (月・祝) ※12月29日~31日は休館 [60日間]	御殿の奥の花鳥 ~〈白書院〉四の間・帳台の間~ 二の丸御殿の最も奥に位置する〈白書院〉は、主人の御座所として使われました。この棟の障壁画は、落ち着いた印象を与える水墨画です。一の間と二の間は山水画、三の間は人物画、四の間と帳台の間は花鳥画が描かれます。四の間は積雪の花木にとまる鷺や雀といった鳥のいる冬景色が、帳台の間は萩や紫苑の咲き誇る秋景色が描かれます。北東に位置し、暗がりになる四の間と帳台の間に花鳥の生命力が宿され、温もりと華やかさがもたらされます。	〈白書院〉四の間障壁画 《雪中梅竹柳小禽図》 〈白書院〉帳台の間障壁画《秋草図》